



国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定



国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 責任をもって保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。

(3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定

会場





◎八戸市

★FLAT HACHINOHE

フィギュア競技会場・アイスホッケー競技会場



★Y S アリーナ八戸

スピード競技会場・表彰式



★テクノルアイスパーク八戸

アイスホッケー競技会場

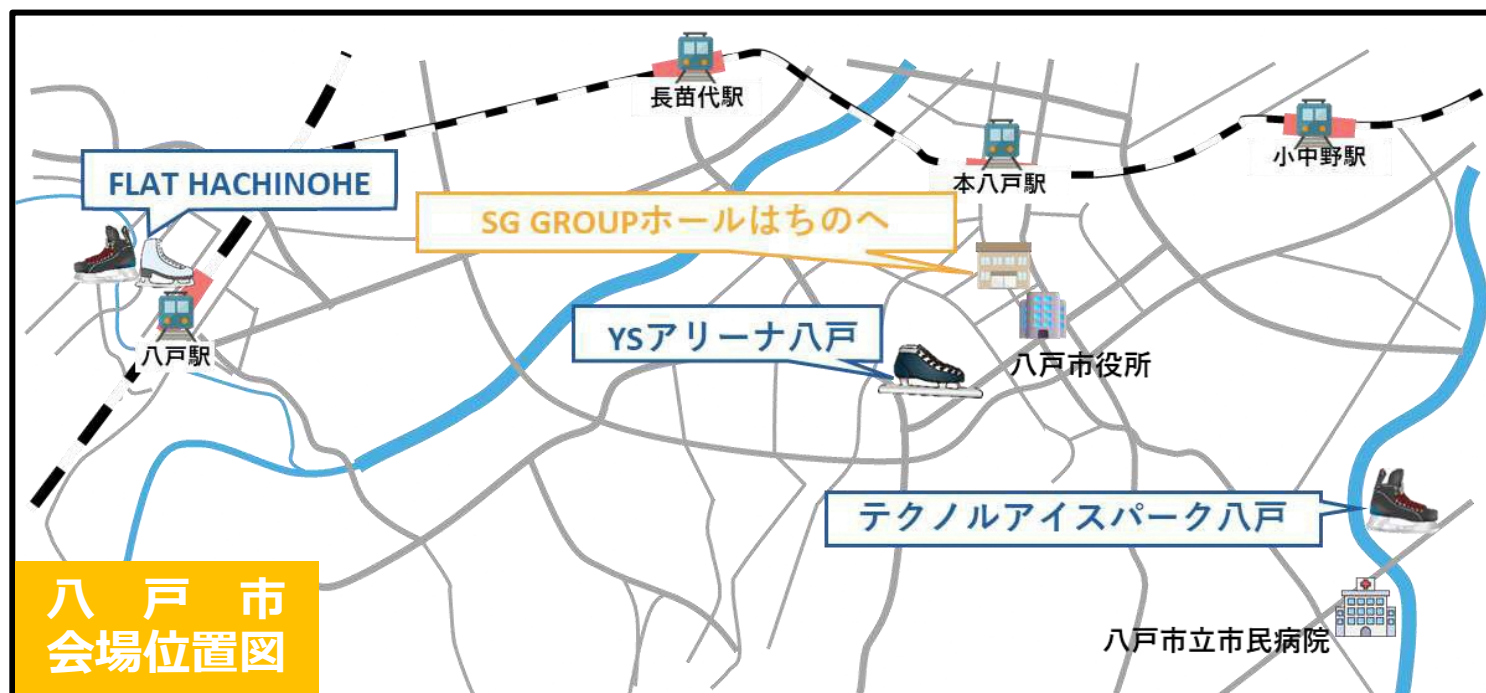


◎三沢市

★三沢アイスアリーナ

ショートトラック競技会場・アイスホッケー競技会場





青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
八戸市実行委員会ホームページ👉



<https://hachinohe-kokusupo2026.com/winter/vanue/>

1 競技会日程と会場一覧表

【正式競技：スケート、アイスホッケー】

| 会 場 地 | 式典・競技 | | 日 程 (2026年) | | | | | | | | | 会 場 所 在 地 | |
|-------------|------------------|--------------------|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------------------------------|-----------------------------------|
| | | | 1月 | 2月 | | | | | | | | | |
| | | | 31 (土) | 1 (日) | 2 (月) | 3 (火) | 4 (水) | 5 (木) | 6 (金) | 7 (土) | 8 (日) | | |
| 八 戸 市 | 開 始 式 | | 午前 ○ | | | | | | | | | SG GROUP ホールはちのへ 八戸市内丸一丁目1-1 | |
| | 表 彰 式 | | | | | | | | | | 午後 ○ | YSアリーナ八戸 八戸市大字売市字興遊下3 | |
| | ス ケ ー ト | ス ピ ー ド | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | YSアリーナ八戸 八戸市大字売市字興遊下3 |
| 三 沢 市 | | シ ョ ー ト ト ラ ッ ク | ○ | ○ | | | | | | | | | 三沢アイスアリーナ 三沢市南山三丁目116-5 |
| 八 戸 市 | | フィギュア | ○ | ○ | ○ | 午前 ○ | | | | | | | FLAT HACHINOHE 八戸市大字尻内町字三条目7-7 |
| | アイスホッケー | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | テクノルアイスパーク八戸 八戸市新井田西四丁目1-1 |
| | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | FLAT HACHINOHE 八戸市大字尻内町字三条目7-7 |
| 三 沢 市 | | | | | | | | ○ | ○ | | | | 三沢アイスアリーナ 三沢市南山三丁目116-5 |

全国会議

| | | |
|---------|------|---|
| 全国代表者会議 | 書面開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料を事前送付 ・質問は、メールで受け付け ・回答は、大会ホームページに掲載 |
| 全国報道員会議 | | |

2 実施要項総則

開 催 の 趣 旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

青森県で開催する第 80 回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」は「翔ける未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに掲げ、スポーツによる感動や交流の輪が広がるとともに、本県のあらゆる魅力を発信するなど、県民総参加による青森県らしさあふれる大会を目指して開催する。

実 施 方 針

1 実施競技

正式競技：スケート、アイスホッケー

2 会期及び会場地

| 競 技 会 名 | 会 期 | 会 場 地 |
|------------|-------------------------------------|---------|
| スケート競技会 | 2026 年 1 月 31 日（土）～ 2 月 8 日（日） 9 日間 | 八戸市、三沢市 |
| アイスホッケー競技会 | 2026 年 2 月 4 日（水）～ 2 月 8 日（日） 5 日間 | |

3 競技方法

各競技実施要項に示す方法とし、都道府県対抗で実施する。

4 アンチ・ドーピング活動の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が 18 歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。なお、参加資格については、「第 80 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を合わせて確認すること。

【公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <https://www.japan-sports.or.jp/>】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうちの「永住者」(「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む)

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「8 参加申込方法」で定めた本戦参加申込締切時【2026年1月6日(火)】に1年以上在籍していること。
- b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

- a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。
- b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注]上記(ウ) bについて、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長(代表者)とスポーツ協会会長(代表者)が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 第78回又は第79回大会(都道府県大会及びブロック大会を含む。)において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第78回又は第79回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者
- b 結婚又は離婚に係る者
- c ふるさと選手制度を活用する者(別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。)
- d 東日本大震災に係る参加資格特別措置を活用する者(別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)
- e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者(別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

[注] a及びbは当該要件発生後、初めて参加する者に限る。

[注]別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

(イ) 少年種別

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者
- b 結婚又は離婚に係る者
- c 一家転住に係る者(別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。)
- d JOC エリートアカデミーに在籍する者(別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。)
- e 東日本大震災に係る参加資格特別措置を活用する者(別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)
- f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者(別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。)

[注] a から c は当該要件発生後、初めて参加する者に限る。

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ 1 競技に限り参加できる。

カ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の 1 年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

（ア）都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

（イ）健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

（ウ）ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

（2）所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

（ア）居住地を示す現住所

（イ）勤務地

（ウ）ふるさと（別記 1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注]別記 3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

（ア）居住地を示す現住所

（イ）「学校教育法」第 1 条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

（ウ）勤務地

（エ）別記 3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学生の所在地

[注]「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2025 年 4 月 30 日から 10 月 31 日まで、引き続き当該地にそれぞれ居住、通勤又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

a 別記 4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

b 別記 5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c 別記 6「令和 6 年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の

適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2『『一家転住等』に伴う特例措置』の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、以下を原則とする。

(ア) 成年種別に参加する者は、2007年4月1日以前に生まれた者とする。

(イ) 少年種別に参加する者は、2007年4月2日から2010年4月1日に生まれた者とする。

(ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2025年4月1日を基準とする。

イ スケート競技については、中学3年生(2010年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者)が参加できるものとする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する。

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は、次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績及び女子総合成績とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数点第3位以下を切り捨てる。

| | | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 |
|----|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 種別 | フィギュア | 24点 | 21点 | 18点 | 15点 | 12点 | 9点 | 6点 | 3点 |
| | アイスホッケー | 40点 | 35点 | 30点 | 25点 | 20点 | 15点 | 10点 | 5点 |
| 種目 | スピード ショートトラック | 8点 | 7点 | 6点 | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 |

[注]「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会(ブロック大会を含む。)に参加した都道府県に与える。ただし、ブロック大会で各競技会の出場権を獲得しながら、各競技会に参加しなかった場合は与えない。

(2) 各競技会の総合成績は、当該競技団体が決定する。ただし、天候その他の事情により一部競技が中止

になった場合は、当該競技団体と大会総務委員が協議する。

- (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。
- (2) 各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (3) 各正式競技の各種別及び各種目の第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらに、その都道府県名と個人名を記載したもの又は都道府県と各チーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。
- (4) 各種別及び各種目の第1位から第3位までの選手にメダルを授与する。

8 参加申込方法

- (1) 都道府県のスポーツ協会会長(代表者)及び各競技団体会長(代表者)は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者を、第80回国民スポーツ大会会長宛に申込むものとする。
- (2) 参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。
- (3) 参加申込締切日は、2026年1月6日（火）とする。
- (4) 参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。
- (5) 参加申込締切後の選手又は監督の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手又は監督を交代する場合は、下記宛に所定の様式(本要項 20 ページ)にて届け出なければならない。なお、交代の可否は、監督会議で決定する。

ア 公益財団法人日本スケート連盟

イ 公益財団法人日本アイスホッケー連盟

ウ 青の煌めきあおもり国スポ冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会青森県実行委員会事務局

[注]スケート競技(スピード、ショートトラック、フィギュア)参加者については、ア及びウに、アイスホッケー競技参加者については、イ及びウに提出するものとする。なお、日本スポーツ協会に対しては、各競技会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続をとらなければならない。なお、棄権手続に係る届出については、選手交代届と同じ様式(本要項 20 ページ)を用いるものとする。

10 大会参加負担金

- (1) 大会に選手団(視察員を除く。)を派遣する都道府県スポーツ協会は、一人当たり次のとおり参加負担金を納入するものとする。

| 参 加 区 分 | 参加負担金 |
|-------------------------------|---------|
| 少年の種別に参加する選手 | 4,000 円 |
| 上記以外の者(本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等) | 8,000 円 |

[注]地震、風水害、感染症及びその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金を行わない。

(2) 大会参加負担金は、各都道府県スポーツ協会に取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入締切日 2026 年 1 月 7 日 (水)

イ 納 入 先 みずほ銀行渋谷支店 普通預金口座 513729

公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、青の煌めきあおもり国スポ冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会青森県県実行委員会（以下「青森県実行委員会」という。）が指定した所定の様式により、定められた申込期限までに申込むものとする。

12 都道府県選手団本部役員編成

都道府県選手団本部役員の編成は、次のとおりとする。

(1) 1 都道府県当たり、団長、総監督及び総務ほか、計 5 名以内とする。

(2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。

(3) 上記 (1) 及び (2) による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。なお、帯同するスポーツドクターは、日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。

(4) 上記 (1) 及び (2) による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。なお、帯同するアスレティックトレーナーは、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

(5) 都道府県選手団本部役員の 1 日当たりの編成人数については、上記 (1) 及び (2) による人数を上限とする。

(6) 都道府県選手団本部役員の申込みは、監督及び選手の申込みと同時に「8 参加申込方法」に定める方法により行う。

13 視察員

(1) 視察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2027 年以降の国民スポーツ大会冬季大会の開催が決定又は内定している県については、20 名以内とする。

(2) 視察員の申込みは、参加選手団の申込みと同時に、「8 参加申込方法」に定める方法により行う。

(3) 視察員は、原則として全ての会場に入場することができる。

14 AD カードの交付

都道府県選手団、大会役員・競技会役員及び競技団体が指定した競技役員、大会主催者及び競技会主催者が認めた者には AD カード (Accreditation Card) を交付する。

15 参加上の注意

(1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。

- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。ただし、スケート競技については、同規程第5条を適用する。

16 個人情報及び肖像権に関わる取扱い

日本スポーツ協会、青森県実行委員会、会場地市実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体(以下「国スポ関係機関・団体」という。)は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取扱いに関して、次のとおり対応するものとする。

(1) 個人情報の取扱い

ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、次の方法等により公表することがある。

(ア) 競技会プログラムへの掲載

(イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介

(ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載

(エ) 大会関連ホームページへの掲載

(オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果(記録)等

競技結果(記録)については、上記イで定めた個人情報とともに、次の方法等により公表することがある。

(ア) 青森県実行委員会が設置する記録本部を通じた公開

(イ) 国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載

(ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載

(エ) 次回以降の競技会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果(記録)等】

(2) 肖像権に関する取扱い

ア 写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真(写真撮影企業等)

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。

また、DVD等に編集され、販売・配布されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取扱いに関する承諾を得たものとして対応する。なお、各競技会における取扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会及びブロック大会等

この大会の予選として、次のとおり都道府県大会(ブロック大会)を開催しなければならない。

- (1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。
- (2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。
- (3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申し込む。なお、1人1競技に限る。
- (4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は、日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。
- (5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。
- (6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者補償制度を運営する。

- (1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規程に定められた選手、監督、選手団本部役員(顧問を含む。)、視察員並びにその他選手団役員とする。
- (2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金(1人あたり1,000円)を日本スポーツ協会へ納入する。
- (3) 納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ通知する。

19 その他

- (1) 参加申込及び宿泊申込が定められた締切日までに行われない場合、又は参加負担金が定められた締切日までに納入されない場合は、この大会への参加を認めない。
- (2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

(3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記1【国民スポーツ大会ふるさと選手制度】

- 1 成年種別に出場する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項[国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号(参加資格及び年齢基準等)]に基づき、次のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者及び『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－（1）－1）－③(国内移動選手の制限)に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、「8 参加申込方法」で定めた参加申込み締切り期日までに、公益財団法人日本スポーツ協会宛に提出する。

別記2【「一家転住等」に伴う特例措置】

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－（1）－1）－③）に抵触しないものとする。
 - （1）この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - （2）本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。なお、「一家転住等」とは概ね次のことをいう。
 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - （3）転居した時点に応じて、次の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2（1）の場合は転居元、下記2（2）の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記2（1）の場合は転居先、下記2（2）の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
 - （1）転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - （2）転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3【JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置】

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項[国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号(参加資格及び年齢基準等)]及び別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、又は同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項－(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－2)－②に定める「居住地を示す現在所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項－(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項－(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注]本特例第1項－(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が J O C エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、国民スポーツ大会委員会の決議を経て当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4【トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置】

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置(以下「本特例」という。)」を以下のとおり定める。

1 本特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、次の条件のいずれかを満たす者とする。

(1) 第24回オリンピック冬季競技大会(2022年・北京)に参加した者。

(2) 2025年10月31日時点で、以下のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者。

ア JOCオリンピック強化指定選手

イ 各競技(種目)における国内ランキング上位10位以内の者

ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

[注]強化指定ランクについては、各競技会における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 本特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件(日数要件の緩和)

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ア) 2025年4月30日から10月31日まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外(海外を含む)において生活している実態がないこと。なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること

b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること

c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

d 当該住居に主要な家財道具が存すること

(イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ア) 2025年4月30日から10月31日まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

(イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－（１）－１）－③のとおりとする。

別記5【東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置】

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

（1）特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

次の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

＜特例の対象者＞

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。ただし、次の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から競技会終了時（2026年2月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

（2）避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した次の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第78回または第79回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－（1）－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜特例の対象者＞

被災地域から避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。ただし、次の事項のいずれにも該当していること。

（ア）2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ）移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注]「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると公益財団法人日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第79回大会に参加した者が、第80回大会に

において、次のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項－(1)－1)－③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

＜例＞ ○避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、次のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

＜特例の対象者＞

2011 年度から 2012 年度(小学校は 2015 年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

別記6【令和6年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置】

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

（1）特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「『学校教育法』第1条に規定する学校の所在地（以下『学校所在地』という。）」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

＜特例の対象者＞

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

- ①令和6年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。
- ②災害が発生しなかったと仮定した場合、当該大会開催年（冬季大会は開催前年）の4月30日以前から当該大会終了時まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

（2）避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

- 1) 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第78回または第79回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項 - （1） - 1） - ③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜特例の対象者＞

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

- ①令和6年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。
- ②移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が当該大会開催年（冬季大会は開催前年）の4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

- 2) 本項 1) を適用して避難等による移動先の都道府県から当該大会の前回大会または当該大会に参加した者が、当該大会の次回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移

動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - ③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞○避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

○他の都道府県に避難先を移す場合

（3）避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

①卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

②災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記②の学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

＜特例の対象者＞

2024 年度から 2025 年度（小学校は 2028 年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

第 80 回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会 参加選手・監督【交代（変更）届・棄権届】

※手続きにあたっては、次ページの留意事項を参照すること

※「交代（変更）届」又は
「棄権届」のいずれかを
○で囲むこと

1 参加申込者

| | | | | | |
|--------|--|----|--|-------|--|
| 競技名 | | 種別 | | 部・種目別 | |
| 参加申込者名 | | | | | |

2 交代（変更）・棄権の理由（該当する番号に○をつけ、症状や具体的な内容をチェック又は記述）

| |
|----------------------|
| 1. 体調不良のため（症状：_____） |
| 2. 怪我のため |
| 3. その他（_____） |

3 交代（変更）者 ※棄権の場合は記入不要

| | | | | | |
|--------------------------------|---------------|--|-------------------|---------------------|--|
| フリガナ | | | 生年月日 | (西暦) 年 月 日生 (歳) | |
| 氏 名 | | | | | |
| 連絡先 (TEL)※1 | | | 連絡先 (メール)※1 | | |
| 所属区分※2 | | | 所属の所在地※3 | | |
| プログラム掲載用所属 | | | | | |
| 第78回大会 参加都道府県名 | | | 第79回大会 参加都道府県名 | 例外適用 ※4 | |
| 中央競技団体 登録の有無 | 有 ・ 無 | | 有の場合 登録番号等 | | |
| その他の必要事項(身長、体重、記録等) | | | | | |
| JSP0 公認スポーツ指導者資格 ※監督交代の場合記入 | 資 格 名 登録番号 | | 有効 期限 | 年 月 | |

※1 交代（変更）者が監督の場合は、連絡先を記入。

※2 第80回大会(都道府県予選会、ブロック大会)所属都道府県について、次のいずれを選択して参加したかを記入。

成年種別 (ア. 居住地を示す現住所 イ. 勤務地 ウ. ふるさと)

少年種別 (ア. 居住地を示す現住所 イ. 学校教育法第1条に規定する学校の所在地 ウ. 勤務地

エ. 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地)

※3 所在地は、市区町村名まで記入。ふるさとを選択した場合には「卒業学校名」を記入。

※4 今回(第80回大会)と第79回大会(不出場の場合は第78回大会)の参加都道府県が異なる場合のみ記入。

(1. 新卒業者 2. 結婚又は離婚 3. ふるさと(成年) 4. 一家転住(少年) 5. JOC エリートアカデミー(少年)

6. 東日本大震災に係る特例措置 7. 令和6年能登半島地震に係る特例措置)

年 月 日

当該中央競技団体会長（代表者） 殿

第80回国民スポーツ大会冬季大会当該開催県実行委員会会長 殿

スポーツ協会

会長（代表者）

協会・連盟

会長（代表者）

第 80 回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会 参加選手・監督交代（変更）・棄権手続きにあたっての留意事項

1 交代（変更）手続き

特別な事情で選手又は監督を交代（変更）する場合には、次の手続きを行うこと。ただし、交代（変更）を認めるか否かについては、当該中央競技団体の判断による。

- （1）実施要項総則及び当該競技実施要項を参照し、交代（変更）する選手又は監督の**参加資格を確認した上で**、交代（変更）届に必要な事項を記入し、各競技が定める方法により提出すること。
- （2）添付書類（診断書等）については、各競技の定めにより提出すること。
- （3）その他、競技により別に定める事項がある場合はそれに従うこと。

2 棄権手続き

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、次の棄権手続きをとること。

- （1）当該選手又は監督は、所属する都道府県連絡責任者へ連絡すること。連絡を受けた都道府県連絡責任者（※ 1）は、棄権届に必要な事項を記入し、当該競技会責任者（※ 2）、当該開催県実行委員会（※ 3）宛に提出すること。なお、原本は提出後必ず保管し、下記 3 に従い、後日、公益財団法人日本スポーツ協会へ提出すること。
- （2）中央競技団体への診断書等の添付は不要。
- （3）その他、競技により別に定める事項がある場合にはそれに従うこと。

3 大会終了後の手続き

大会終了後、都道府県スポーツ協会並びに中央競技団体は、次の手続きを行うこと。

- （1）都道府県スポーツ協会は、大会終了後通知される公益財団法人日本スポーツ協会の案内に従い、交代（変更）手続き後の参加申込情報の修正を行うこと。ただし、棄権手続きの場合、参加申込情報の修正は不要。
- （2）大会終了後 2 週間以内に、下記を公益財団法人日本スポーツ協会に提出すること。
 - ア 中央競技団体は、交代（変更）届（写し）及び棄権届（写し）
 - イ 都道府県スポーツ協会は、棄権届（写し）及び棄権届提出一覧

- ※ 1 都道府県選手団連絡責任者に関する情報は、公益財団法人日本スポーツ協会が大会開催前に各都道府県スポーツ協会に対し照会を行い、取りまとめの上、中央競技団体に通知する。
- ※ 2 競技会責任者及び指定連絡先は、公益財団法人日本スポーツ協会が大会開催前に各中央競技団体に対し照会を行い、取りまとめの上、都道府県スポーツ協会に通知する。
- ※ 3 「1 交代（変更）届」と同様に「2 棄権届」についても、各競技が定める開催県実行委員会に提出すること。

3 各競技実施要項

◇ 正 式 競 技 ◇

〔1〕スケート競技

1 期 日 2026年1月31日（土）から2月8日（日）まで（9日間）

| 実 施 競 技 | 競 技 期 間 |
|-----------|------------------------------|
| ス ピ ー ド | 2026年2月5日（木）～2月8日（日）まで（4日間） |
| ショートトラック | 2026年1月31日（土）～2月1日（日）まで（2日間） |
| フ ィ ギ ュ ア | 2026年1月31日（土）～2月3日（火）まで（4日間） |

2 会 場

| 会 場 地 | 実 施 競 技 | 競 技 会 場 |
|-------|-----------|----------------|
| 八戸市 | ス ピ ー ド | YSアリーナ八戸 |
| 三沢市 | ショートトラック | 三沢アイスアリーナ |
| 八戸市 | フ ィ ギ ュ ア | FLAT HACHINOHE |

3 種別、種目及び参加人員

（1）種別及び種目

ア スピード

| 種 別 | 種 目 |
|---------|--------------------------------------|
| 成 年 男 子 | 500m・1000m・1500m・5000m・2000mR |
| 成 年 女 子 | 500m・1000m・1500m・3000m・2000mR |
| 少 年 男 子 | 500m・1000m・1500m・5000m・10000m・2000mR |
| 少 年 女 子 | 500m・1000m・1500m・3000m・2000mR |

イ ショートトラック

| 種 別 | 種 目 |
|---------|-------------------|
| 成 年 男 子 | 500m・1000m・5000mR |
| 成 年 女 子 | 500m・1000m・3000mR |
| 少 年 男 子 | 500m・1000m |
| 少 年 女 子 | 500m・1000m |

ウ フィギュア

| 種 別 | 種 目 |
|---------|--|
| 成 年 男 子 | シ ョ ー ト プ ロ グ ラ ム フ リ ー ス ケ ー テ ィ ン グ |
| 成 年 女 子 | |
| 少 年 男 子 | |
| 少 年 女 子 | |

(2) 参加人員

| 種別 | 監督 | 選手 | 都道府県数 | 小計 | 合計 |
|------|--------|--------|-------|------------------|---------|
| 成年男子 | 12 名以内 | 30 名以内 | 47 | 1 都道府県 66 名以内 | 858 名以内 |
| 成年女子 | | | | | |
| 少年男子 | | 24 名以内 | | | |
| 少年女子 | | | | | |

各都道府県は、監督 12 名、選手 54 名、計 66 名以内で編成し、各種別、各種目の参加者数は上記のとおりとする。ただし、総計 858 名を超える場合は、公益財団法人日本スケート連盟が調整する。成年選手が監督を兼任する場合、競技・種別を跨ぐ兼任は認めない。また、専任監督の種別の兼任は認めるが、競技を跨ぐ兼任は認めない。

参加申込締切り後の監督交代（変更）は、疾病、傷害等の特別な場合のみ認めるものとし、原則として監督会議開始までとするが、やむを得ない事情により監督会議後に参加申し込みをした監督が不在となる場合は、監督の交代（変更）を認める場合がある。

ア スピード

(ア) 各都道府県のエントリーは、前年度の国民スポーツ大会で各種別の総合順位が 1 位から 16 位までの都道府県は各種別最大 8 名まで、17 位以下の都道府県は各種別最大 5 名までとする。ただし、国民スポーツ大会開催県が 17 位以下の場合は 16 位に繰り上げる。

各都道府県の種別順位が 16 位までの中に得点が得られなかった場合、順位が決定している都道府県以下の順位の決定は、各種目予選から決勝までのレースごとにパフォーマンスポイントを 1 位 8 点、2 位 7 点、3 位 6 点、4 位 5 点、5 位 4 点、6 位 3 点、7 位 2 点、8 位 1 点を与えて都道府県ごとの合計得点により以降の順位を決定する。この場合、長距離(3000m・5000m・10000m)に限り、1 位 12 点、2 位 11 点、3 位 10 点、4 位 9 点、5 位 8 点、6 位 7 点、7 位 6 点、8 位 5 点、9 位 4 点、10 位 3 点、11 位 2 点、12 位 1 点とする。

(イ) 1 種目 2 名以内、1 名 2 種目（リレーは除く。）以内とする。また、最大枠の中で各種目 1 名の補欠をエントリーできる。リレーのエントリーは 1 チーム 6 名以内とし、競技は 4 名で行う。

(ウ) エントリー後における選手の交代は、公益財団法人日本スケート連盟スピードスケート競技規則運用マニュアル 3-6 国スポの組合せに関する取扱いについて（2）に定める事由に準ずる。

(エ) スピードとショートトラックに重複してエントリーすることはできない。

(オ) 監督はスピード、ショートトラック、フィギュアを合わせて 12 名以内とする。

イ ショートトラック

(ア) 前年度の国民スポーツ大会で各種別の総合順位が 1 位から 8 位までの都道府県と、前年の全日本都道府県対抗競技会で、各種別の総合順位が上記 8 位までを除いた都道府県で、各種別それぞれ 8 位まで、計 16 の都道府県は、成年男女種別各 5 名以内、少年男女種別各 2 名以内とし、17 位以下の都道府県は各種別 1 名とし、国民スポーツ大会開催県が 17 位以下の場合は 16 位に繰り上げ、以下の順位を繰り下げる。前年度の国民スポーツ大会の各都道府県の種別順位が 8 位までの中に得点が得られなかった場合は、全日本都道府県対抗競技会の成績による。

(イ) 1 種目 2 名以内、1 名 2 種目（リレーは除く。）以内とする。また、最大枠の中で各種目 1 名の補欠をエントリーできる。リレーのエントリーは 1 チーム 5 名以内とし、競技は 4 名で行う。

16 位までの都道府県少年男女種別と 17 位以下の都道府県各種別については、エントリー後に病気、けが等で出場できない場合は、抽選会以前でレフェリーが認めた時に限り変更することができる。

(ウ) 上記以外のエントリー後における選手の交代は、公益財団法人日本スケート連盟スピードスケート競技規則運用マニュアル 4-7 国スポショートトラック競技の組合せに関する取扱いについて (2) に定める事由に準ずる。

(エ) ショートトラックとスピードに重複してエントリーすることはできない。

(オ) 監督はスピード、ショートトラック、フィギュアを合わせて 12 名以内とする。

ウ フィギュア

(ア) 参加人数は、各種別とも 1 都道府県 1 チーム 2 名とする。

参加都道府県は、a から c に該当する最大 16 チームである。

a 前年度国民スポーツ大会で、各種別の総合順位が上位 8 チームで今年度の予選参加申込締切日までに大会出場の意向を提出したチーム

b 第 80 回国民スポーツ大会冬季大会フィギュア競技予選会において出場権を得たチーム

c 開催都道府県で今年度の予選参加申込締切日までに大会出場の意向を提出したチーム

(イ) 監督はスピード、ショートトラック、フィギュアを合わせて 12 名以内とする。

4 競技上の規定及び競技方法

(1) スピード

ア 公益財団法人日本スケート連盟シングルトラックスピードスケート競技特別規則による。トラックは、「387.36m 標準シングルトラック (C タイプ)」を使用する。

イ 競技は個人及び都道府県対抗とし、種目ごとに予選及び決勝を行う。なお、予選及び決勝は、次の方法により行う。

(ア) 予選は、各都道府県からの出場申込記載順によりシードして組み合わせる。

(イ) 決勝出場者

a 8 名以内 (男女 500m、男女 1000m、男女 1500m)

b 12 名以内 (男子 5000m、男子 10000m、女子 3000m)

(ウ) 男女 500m、1000m、1500m については、出場者数により準決勝を行うことができる。

(エ) 500m とリレー競技では、決勝 A (1 位～4 位) 及び決勝 B (5 位～8 位) を行い、順位を決定する。

ただし、参加者 (チーム) が 6 名 (チーム) 以内の場合は決勝のみとする。

(オ) 組合せに当たっては、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本スケート連盟イベントコーディネーター、レフェリー及びスピード委員が立会い、責任をもって調整する。

ウ リレーの編成は、エントリー選手であれば予選と決勝で同一選手でなくてもよい。ただし、メンバー及び出走順の提出は主催者発表の時間前までとし、スケートの破損、選手の負傷等の特別な理由による変更の申し出は、主催者発表の時間前までとする。届出の時間は主催者が発表する。

エ 責任先頭制の競技方法を採用する。

(ア) 責任先頭を課す距離及び回数は、次のとおりとする。

1000m (1 回)、1500m (1 回)、3000m (2 回)、5000m (4 回)、10000m (8 回)

(イ) 責任先頭判定ラインは、両ストレートの中央に、走路に直角に引いた線とし、シングルトラック

競技のフィニッシュの判定基準により行う。ただし、責任先頭の回数は、1000mを除きスタート後最初の判定ラインを除外する。

(ウ) 責任先頭の負荷種目の順位は、責任先頭を完了した者を優先して、到着順で順位を決定する。

また、責任先頭を完了しなかった者は、取得した回数の多少にかかわらず到着順とする。ただし、男子 10000mにおいては、責任先頭を完了した者を優先して到着順に順位を決定し、次に回数未完了者の中で、取得回数の多い順に順位を付け、同回数の場合は到着順で決定する。さらに、未取得の者が到着順にこれに続く。

オ 抗議は、監督を通じてのみ行うことができる。

カ 出場選手の安全装具の装着について、下記の通り定める。

(ア) レーシングスーツはカットレジスタンス素材（部分的含む）が望ましい

(イ) ASTM 基準のヘルメットの着用

(ウ) 革製又はカットレジスタンス素材の手袋の着用

(エ) シンガード（脛あて）の着用

(オ) ネックプロテクションの着用

(カ) アンクルプロテクションの着用

(キ) ブレードの両端は最小半径 10mm で丸くされていること

キ 補欠選手 との変更または棄権する場合は、当該種目の開始 1 時間前までに、所定の様式に必要事項を記入の上、文書で届け出を行うものとする。

(2) ショートトラック

ア 公益財団法人日本スケート連盟ショートトラックスピードスケート競技特別規則による。トラックは、標準ショートトラックを使用する。

イ 競技は個人及び都道府県対抗とする。

ウ 出場者をもって予選、準決勝、決勝、順位決定レースを行い、順位を決定する。なお、予選及び決勝は、次の方法により行う。

(ア) 各種目ともエリミネーション方式とし、ラウンド及び組数は、出場者数に基づいて設定する。

(イ) レフェリー救済者を除き、500m、1000mの準決勝及び決勝は 4 名までの編成とする。

(ウ) レフェリー救済者を除き、各レースの 1 位、2 位の者は次のラウンドに進出できる。

(エ) 同種別のレース間に最低 15 分間の休憩時間をおく。

(オ) 成年男子リレーの予選、準決勝は 3000mで行う。

エ 各種目とも、最初のラウンドの組合せは、各都道府県からの出場申込記載のブロック別とし、そのブロックにおけるラウンドの編成は、今年度全日本距離別ランキングに基づいて、次にバジテスト級により同一級の中で抽選して各組に配置する。

また、補欠を起用する場合は予選にのみ適用し、交代者の組に置き換えることとし、全体の組合せの変更は行わない。組合せにあたっては、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本スケート連盟イベントコーディネーター、レフェリー、コンペチターズスチュワード及び公益財団法人日本スケート連盟スピード委員会が立会い、責任をもって調整する。

オ 補欠選手との変更または棄権する場合は、当該種目の開始 1 時間前までに、所定の様式に必要事項を記入の上、文書で届け出を行うものとする。

カ 順位は、決勝レース及び順位決定レースにより、1位から8位を決定する。

(3) フィギュア

ア 2025年国際スケート連盟特別規程、技術規程に準ずる。採点はISUジャッジングシステムによる。

イ 各種別参加選手32名以内によってショートプログラムを行い、上位24名によるフリースケーティングを行い、2名の総合成績合計で各チームの順位を決定する団体競技とする。

数値が同じ場合は、個人成績の良い選手を含むチームが上位となる。

[注]①1名では参加できない。

②2名申込みの場合でも1名が棄権した場合は、そのチームは失格とする。

ウ 本大会においてショートプログラム終了以前に1名でも選手が棄権した場合は、そのチームは失格となる。ただし、フリースケーティングにおける棄権は、棄権した選手に対しフリースケーティングの最下位の順位が与えられる。

エ 予選チームと本大会出場チームは、有資格者であればメンバーが異なっても構わない。

オ 本選において選手の変更のある場合は、監督会議前に文書で届け出た場合のみ1名の変更を認めることができる。抽選後の変更は認められない。

カ 競技課題

ショートプログラムは、2025年国際スケート連盟技術規程第611条に基づき、少年はISUジュニア課題、成年はISUシニア課題とする。

フリースケーティングは、2025年国際スケート連盟技術規程第612条に基づき、少年はジュニア、成年はシニアのISU規則に準ずる。

キ 滑走時間

(ア) ショートプログラム滑走時間は、2分40秒±10秒とする。

(イ) フリースケーティング滑走時間は、成年男子・成年女子4分±10秒、少年男子・少年女子3分30秒±10秒とする。

ク 音楽は、CDを使用することとし、最初から再生できるものとする。また、必ず予備の音源も持参すること。

ケ 演技予定要素リストは、参加選手個人において2026年1月6日(火)までに公益財団法人日本スケート連盟ホームページ「マイページ」より登録すること。

登録手続きURL <https://www.skatingjapan.jp/mypage/> なお、登録できない場合は、都道府県単位でまとめて次の送付先へ提出すること。

【送付先】

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 内

公益財団法人 日本スケート連盟 E-mail: jsf@skatingjapan.or.jp

コ 滑走順抽選は監督会議において行う。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

「2 実施要項総則」5に定めるもののほか、次のとおりとする。

(1) 監督

公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度に基づく公認スケートコーチ1、公認スケートコーチ2、公認スケートコーチ3、公認スケートコーチ4、又は公認スケート教師の資格を有す

ること。

(2) スピード

公益財団法人日本スケート連盟バッジテストB級以上（スピード・ショート）の資格を有する者（バッジテスト認定証は、必ず持参すること。）

(3) ショートトラック

公益財団法人日本スケート連盟バッジテストB級以上（スピード・ショート）の資格を有する者（バッジテスト認定証は、必ず持参すること。）

(4) フィギュア

各種別とも、公益財団法人日本スケート連盟フィギュアバッジテスト総合5級以上の資格を有する者。ただし、中学3年生が参加する場合は、バッジテスト総合6級以上とする。

6 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点を合計し、その得点の多い都道府県順に1位から8位までを決定する。ただし、同得点の場合はその順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点の種類

ア 各種目に与える得点競技：スピード、ショートトラック

イ 種別に与える得点競技：フィギュア

(2) 競技得点

| 天皇杯対象種別 | 皇后杯対象種別 | 競 技 得 点 |
|------------------------------|--------------|--|
| 成年男子 成年女子 少年男子 少年女子 | 成年女子 少年女子 | スピード、ショートトラック：各種目（リレーを含む。）とも、1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点の競技得点を与える。 フィギュア：各種別とも、1位24点、2位21点、3位18点、4位15点、5位12点、6位9点、7位6点、8位3点の競技得点を与える。 |

※同得点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

得点は、次の順位の得点を加え、当該都道府県で等分する。

(3) 参加得点

大会（ブロック大会等を含む。）に参加した都道府県に、参加得点10点を与える。ただし、第80回国民スポーツ大会冬季大会フィギュア競技予選会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

7 表 彰

(1) 男女総合成績及び女子総合成績の1位から8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(2) 男女総合成績1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

(3) 競技の各種別及び種目の1位から8位までに賞状を授与する。ただし、団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督含む。）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらに、その都道府県名と当該個人名を記載したもの又は都道府県と各チーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものを

チーム全員に授与する。

(4) 各種別及び各種目の第1位から第3位までの選手にメダルを授与する。

8 諸会議

(1) 組合せ抽選会

ア スピード

日 時 2026年1月11日(日) 15:00～

場 所 YSアリーナ八戸 大会議室

電 話 0178-43-9544

イ ショートトラック

日 時 2026年1月11日(日) 13:00～

場 所 YSアリーナ八戸 大会議室

電 話 0178-43-9544

(2) 監督会議

ア スピード

日 時 2026年2月4日(水) 15:00～

場 所 八戸市スポーツ研修センター 第1会議室

電 話 0178-22-7181

イ ショートトラック

日 時 2026年1月30日(金) 14:00～

場 所 三沢市国際交流教育センター 2階 研修室1・2

電 話 0176-51-1255

ウ フィギュア

日 時 2026年1月30日(金) 14:00～

場 所 ユートリー 1階 多目的大ホールB

電 話 0178-27-2227

(3) 競技役員会議

ア スピード

日 時 2026年2月4日(水) 17:00～

場 所 YSアリーナ八戸 大会議室

電 話 0178-43-9544

イ ショートトラック

日 時 2026年1月30日(金) 16:00～

場 所 三沢市国際交流教育センター 2階 研修室1・2

電 話 0176-51-1255

ウ フィギュア(レフェリー、テクニカル・コントローラー会議)

日 時 2026年1月30日(金) 13:00～

場 所 ユートリー 5階 会議室

電 話 0178-27-2227

9 その他

その他の事項については、総則の定めによる。

〔2〕アイスホッケー競技

1 期 日 2026年2月4日(水)から2月8日(日)まで(5日間)

| 種 別 | 2月4日(水) | 2月5日(木) | 2月6日(金) | 2月7日(土) | 2月8日(日) |
|------|---------|---------|---------------|--------------|-------------|
| 成年男子 | 1回戦 | 2回戦 | 準々決勝 順位決定戦 | 準決勝 順位決定戦 | 決勝 3位決定戦 |
| 少年男子 | 1回戦 | 準々決勝 | 順位決定戦 | 準決勝 順位決定戦 | 決勝 3位決定戦 |

2 会 場

| 会 場 地 | 競 技 会 場 | 住 所 |
|-------|----------------|-----------------|
| 八戸市 | テクノルアイスパーク八戸 | 八戸市新井田西四丁目1-1 |
| | FLAT HACHINOHE | 八戸市大字尻内町字三條目7-7 |
| 三沢市 | 三沢アイスアリーナ | 三沢市南山三丁目116-5 |

3 種別及び参加人員

| 種 別 | 監 督 | 選 手 | 参加都道府県数 | 小 計 | 合 計 |
|------|-----|-----|---------|-----|-----|
| 成年男子 | 1 | 16 | 26 | 442 | 663 |
| 少年男子 | 1 | 16 | 13 | 221 | |

4 競技上の規定及び競技方法

- (1) アイスホッケー公式国際競技規則及び本大会要項による。
- (2) トーナメント方式により、1位から8位までを決定する。
- (3) 5位から8位までの順位決定戦の組合せ抽選は行わない。
- (4) 試合前の練習は、試合開始 25 分前から 10 分間とし、競技時間は、1 試合を第 1、第 2、第 3 ピリオドの 3 回に分け、ピリオド間にインターバルを挟む。
各ピリオド正味 20 分とし、インターバルは 10 分とする。
- (5) 第 3 ピリオド終了時に同点の場合は、3 分間の休憩の後、5 分間のサドンデス方式による「3 on 3 方式」の延長ピリオドを行う。なお、決しない場合は、3 名によるペナルティショット・シュートアウトを行う。それでも決しない場合は、1 名ずつのサドンデス方式によるペナルティショット・シュートアウトを行う。
- (6) 全ての試合において、10 点差以上の得点差がついた時点で、次のフェイスオフ以降のゲームタイムは、ランニングタイムとする。
ア 点差が縮まった場合でも、継続する。
イ 次の場合は、時計を止めるものとする。
(ア) 得点時一旦止めるが、レフェリーがオフィシャルに報告にきた時点で、直ちにスタートする。
(イ) 反則発生時一旦止める。次のフェイスオフでスタートする。
(ウ) 選手が負傷し交代に時間を要する場合やチームからの質問などで時間を要する場合などは、レフェリーの指示で時計を止める。次のフェイスオフでスタートする。
ウ 反則時間終了時にプレーが止まっていたら、その選手は次のフェイスオフでパックがドロップされるまでペナルティーベンチから出られない。

- (7) 成年、少年とも大会登録は、大会中にゴールキーパー1名を含め、16名以内とする。なお、試合進行のために必要な員数を氷上に揃えることができなくなった時点で没収試合とし、0対15で当該チームの敗戦とする。

5 予選方法

- (1) 予選は都道府県大会及びブロック大会とする。
- (2) 都道府県大会は各都道府県スポーツ協会等の主催とし、ブロック大会は各ブロック内関係都道府県スポーツ協会等の共催、開催地連盟の主管とする。
- (3) ブロック大会の関係都道府県及び選出チーム数は次のとおりとする。

| ブロック名 | 都道府県名 | 成年 | 少年 |
|--------|----------------------------|----|----|
| 北海道 | 北海道 | 1 | 1 |
| 東北 | 岩手・宮城・秋田・山形・福島 | 3 | 1 |
| 関東 | 茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨 | 5 | 4 |
| 北信越・東海 | 新潟・長野・富山・石川・福井・静岡・愛知・三重・岐阜 | 4 | 3 |
| 近畿 | 滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山 | 4 | |
| 中国・四国 | 鳥取・島根・岡山・広島・山口・香川・徳島・愛媛・高知 | 4 | 3 |
| 九州 | 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄 | 4 | |
| 開催地 | 青森 | 1 | 1 |
| 計 | | 26 | 13 |

6 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

「2 実施要項総則」5に定めるもののほか、次のとおりとする。

- (1) 2025-2026 シーズンアジアリーグに出場したチームに所属登録された選手は出場できない。
- (2) 本大会の参加人員は、「アイスホッケー競技要項」の3によるが、選手については、各都道府県大会及びブロック大会に出場した者のうちからメンバーを編成する。
- (3) 監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく公認アイスホッケーコーチ1、公認アイスホッケーコーチ3又は公認アイスホッケーコーチ4の資格を有すること。

7 参加申込、交代

「2 実施要項総則」8に定めるもののほか、次のとおりとする。

- (1) 本大会の参加申込は、監督1名、選手16名、予備登録選手9名以内とする。
- (2) 選手又は監督の交代届は、所定の様式により監督会議開始前までに提出するものとする。
- (3) 選手の交代は、予備登録選手に限り認める。
- (4) 監督は、特別な事情がある場合、大会期間中の交代を認める。ただし、交代者は6(3)に掲げる監督要件を有する者に限る。

8 総合成績決定方法

総合成績（天皇杯得点）は、競技得点と参加得点を合計し、その得点の多い都道府県順に1位から8位までを決定する。ただし、同得点の場合はその順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

| 天皇杯対象種別 | 競技得点 |
|--------------|---|
| 成年男子 少年男子 | 各種別の1位40点、2位35点、3位30点、4位25点、5位20点、6位15点、7位10点、8位5点の競技得点を与える。ただし、同順位の場合はその順位を共有し、次の順位を欠位とする。得点は次の順位の得点を加え、当該都道府県で等分する。 |

(2) 参加得点

大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に、参加得点 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

(3) その他

ア 総合成績（天皇杯得点）の決定は、公益財団法人日本アイスホッケー連盟が行う。

イ 天候その他の事情により一部競技が中止になった場合の成績は、大会総務委員会と公益財団法人日本アイスホッケー連盟が協議する。

9 表 彰

(1) 総合成績の1位から8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(2) 総合成績1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

(3) 各種別の1位から8位までに賞状を授与する。

賞状は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらに、その都道府県名と当該個人名を記載したもの又は、都道府県名とチーム全員（監督を含む。）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

(4) 各種別の第1位から第3位までの選手にメダルを授与する。

10 参加上の注意

(1) 2026 年1月6日（火）までにチームのホーム用及びビジター用ユニフォームの写真データをCDで郵送又はEメールで、次の送付先へ提出すること。

【送付先】

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号

青の煌めきあおもり国スポ冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会青森県実行委員会事務局

E-mail:kokuspo@city.hachinohe.aomori.jp

(2) 監督以外にベンチに入ることができるコーチは、ドクター資格又はトレーナー資格を有するコーチを含め6人以内とする。

(3) J.I.H.F.2021～2022 発第312号〔通知〕に基づき、プレイヤーは、ユニフォームにタイダウンストラップを備え付けること。

(4) J.I.H.F.2021～2022 発第226号〔通達〕に基づき、1974年12月31日以降に生まれたプレイヤーは、単色透明・肌色・白色以外のマウスガードを着用すること。

(5) 少年に参加するプレイヤーは、J.I.H.F.2021～2022 発第226号〔通達〕に基づき、適切な保護具を着用すること。

(6) その他の事項は、「2 実施要項総則」15によるものとする。

11 諸会議

(1) 組合せ抽選会

ア 日 時 2026 年 1 月 10 日 (土) 14:00～

イ 場 所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

ウ 電 話 03-5843-0375 (公益財団法人日本アイスホッケー連盟)

(2) 監督会議

ア 日 時 2026 年 2 月 3 日 (火) 15:00～

イ 場 所 八戸市スポーツ研修センター 第 1 会議室

ウ 電 話 0178-22-7181

12 その他

その他の事項については、総則の定めによる。



役員

大会役員

スケート競技会役員

アイスホッケー競技会役員

第80回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会 大会役員

(順不同、敬称略)

名誉会長
会長
副会長
顧問

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|--|---|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| 松遠河張山池笠工中室藤貝多吉上山中田山市谷近小知前生千北塩中福猪奥堂馬辛平 | 本藤子合本田師藤嶋伏田瀬氣田治口里村口野田部藤野念川島葉條見村永飼田本越木良 | 洋利直純富士浩めぐみ久保由裕智洋長丈壮恒徹保和重賢か典玲俊清宏秀敏ひさ祐秀朝 | 平明美一夫浩美子実佳司洋平寿太郎宏也彦正己彦和二おる恵明佳明仁平樹之晃美希子治 | 田宮森勝石鹿久橋湯川藤森井齋湧南岡蒔田丸木池園出上大奥田名松高山横河青宮藤 | 中下田井島保本川原崎木永本田中石村谷山口杉沢山子部本橋本尾村木成原 | 不二宗喜朗織博美子之誠晃志子仁文章実周博美成夫之央子信之雄広浩三治一泰蔵樹 | 三小安岩植木小旗吉室土鬼多佐宮大山村中井大中田布谷酒新井森山松小渡城藤大河原 | 宮谷西田平寺生岡城橋頭賀藤永野崎田村上澤山邊村藤井井出山本西邊戸本 | 恵知孝史芳康成信登志有恒健美勝利ゆり明俊哲幸節祐一彰仁博次幸太郎三敏格朗 | 利也之昭実定洋之子之久志紀雄司津淳洋衛子弘美行人彦雄一彰仁博次幸太郎三敏格朗 | 森岡飯浦桐櫻村久金石長安馬千加浅建齋今古田城茂熊藤山今南増船近田小岩川 | 岡崎塚木井松保子丸谷藤場田見部藤川城中門野谷田崎西部田藤中柳元上 | 裕助一悟美奈子香さやか直日出元洋美健敬彰良啓資政直幸知成博則和一勝幸隆 | 策一子香か生澄国子淳香一出弘太郎久徹文久一巳夫一雄伯彦稔彦成弘 |
|---------------------------------------|--|--|---|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|

| | | | |
|------|-----|-----|----|
| 宇津木 | 山口 | 妙純 | 子子 |
| 山福茂岡 | 田里田 | かおる | る毅 |
| 田名部 | 張木 | 華匡 | 子代 |
| 風三本 | 達増 | 知 | 子温 |
| 大井川 | 熊谷 | 拓和 | 也彦 |
| 花中 | 角谷 | 俊英 | 人世 |
| 高池 | 橋田 | 多加 | 二二 |
| 越後 | 宗田 | 祥二 | 郎也 |
| 大塩 | 石田 | 誠孝 | 昌純 |
| 廣大櫛 | 田崎引 | 美光 | 香明 |
| 小比類 | 中田 | ユキ | 子正 |
| 田成三 | 橋田 | 順陽 | 規造 |
| 和伊川 | 吹村 | 一寛 | 光三 |
| 今夏 | 堀田 | 信 | 司一 |
| 奥松澤 | 本池 | 嘉忠 | 悟博 |
| 山菊沼 | 辺本 | 史純 | 一郎 |
| 山橋 | 場 | 高巖 | 雄晴 |
| | | 慎恒 | 市史 |
| | | 保 | 弘也 |
| | | | 太人 |

| | | | |
|---------------------|--------------|-------------|-----|
| 司孝人良一徳康里生士裕剛浩隆彦也實義郎 | 一勝人平一一裕文洋子佑貴 | ゆかり博滋司久憲子慎 | 夫 |
| 正真恭潤聡慎優裕清元 | 宇正和悠修浩 | 清陽大 | 郁 |
| 菅澤水田田渡藤川川村野野 | 村沢明藤橋堀井谷俣平 | 笠原谷田田坂田山藤沢田 | 木々々 |
| 小寺清柿神江工藤荒北大高馳田齋丸槇山日 | 中蛭木工高夏丸山吉大 | 小笠賀吉安小安村工大花 | 佐 |

| | | | |
|---|----------------------------------|--------------------------------------|---|
| 隆美樹彦淳子泉記太子司浩朗恭史男政太郎直子之勲弘郎也治知雪宏昭男博美穗信武夫至修和 | 久茂和若秀幸美祐伸八歲知昭嗣誠益住貴貴悅達直深祥孝定惠美義郁宏秀 | 良林野島原中木村藤田田藤橋岡部生杉本池藤水田士田端澤藤部內間慈川野木山中 | 奈小小矢津佐山西藤吉遠岡新伊高林村服麻大井菊工清寺福山田大芥田鹿平久守宇佐坪小山田 |
|---|----------------------------------|--------------------------------------|---|

| | | | |
|--|--|--|--|
| 子一之宏行男美明久司一博一章俊泉英男博一子悦彦光爾人介留美修樹子安也之子紀明章一浩昭 | 廣幸裕敦世喜珠俊昭有富守秀隆知岩隆ヱニ圭広敏兼政栄之晴由紀清知博文和正弘英史 | 藤村子野田士町島田本部村脇崎田塚斐城井部澤藤藤川田内藤坂向畑藤谷野村井内峨田本田 | 佐菊中増浅升福横長鶴福山阿大西宮荊大甲玉粃阿大工齊谷花森安夏北高後小中後高米嵯津山岩 |
|--|--|--|--|

参 与

委員長
副委員長

総務委員

委員

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 松山加三 | 永本藤田 | 敬誠光礼 | 子三国一 | 鹿三菅山 | 島宅原澤 | 丈宏哲文 | 博実朗裕 | 櫻稲田元 | 井垣崎橋 | 由公博洋 | 香雄道介 | 金笠松辻 | 子野田谷 | 日出英基 | 澄弘子弘 |
| 中佐藤江 | 嶋橋本橋 | | 実誠格晴 | 出田北加 | 崎内島藤 | 和慎隆弘 | 夫也英和 | 宇吉中小 | 野田村澤 | 宏大大 | 武崇平樹 | 熊山野工 | 谷下口藤 | 利栄友俊 | 彦次里憲 |
| 高平福葛 | 井野士西 | 千和幸玲 | 紀了洋広 | 山高栗吉 | 本橋原田 | 高聖長信 | 史一崇寿 | 永竹ノ濱 | 井脇野島 | 雅智亮良 | 史秋勉一 | 森鈴寺中 | 木澤梶木 | 克秀章友 | 晃宜淳則 |
| 黒堀川朝 | 越口倉川 | | 浩巖善之 | 加山木西 | 口塚原藤 | 憲俊鉄斗 | 二昭也男 | 富岡平菅 | 川泉井原 | 宏正明治 | 輔茂治幸 | 岡濱伊中 | 本崎東段 | 友毅由美 | 満嗣美子 |
| 岸長鈴杉 | 南木本邊 | 康剛哲信 | 生吾二一 | 衛内國山 | 田重口崎 | 敬淳さゆ | 輔二り剛 | 上久保根 | 保根梨治 | 明恵百克 | 僚子紀子 | 吉川富加 | 田口澤藤 | 由美子三 | 也国久輔 |
| 田政辻田 | 岡部部 | 航貴良吉 | 大行雄也 | 坊柿山 | 本 | 百繁芳 | 花信弘 | 高品小河 | 治原村 | 百克晃 | 映久一 | 村高 | 山森 | 通大 | |
| 綾 | | | | | | | | 下 | | | | | | | |

第80回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会 スケート競技会役員

(順不同、敬称略)

名誉会長
会長
副会長

顧問

参与

委員長

熊谷雄一 長島昭久 工藤俊憲 岡田英里 藤川吉博 細川和典 遠藤浩志 狩野富夫 塚越忠昭 中川真秋 神田中英之 山田直也 大田恒男 井上清孝 鎌形和明 藤崎剛 山名文世 前田由美 間盛仁 石橋充志 小屋敷孝好 豊田美博 五戸定朗 浅野孝幸 小比類卷菜保 奥本洋子 春日康巳 西落合喜一 佐々木郁夫 工藤俊正 米内俊夫 岡沼宏洲 木村富士夫 小笠原嘉隆 風谷英隆

小檜山吉紀 沼辺慎也 米内正明 加澤明久 竹田浩壽 佐藤英勝 田口勝也 堀内光一郎 下沢佳充 内田かなめ 芝井敬司 吉岡きよ乃 河井美和子 山崎啓輔 立山秀樹 室龍哉 土嶺直樹 吉田洸龍 久保百恵 中村益則 壬生八十博 伊藤圓子 寺地則行 小比類卷大晃 鈴木重正 澤口正義 小比類卷雅彦 小澤直子 蛭名政亮 佐々木結子 齋藤信哉 木村三男 河原木浩一 目澤伸栄 松島政栄

齋木尚子 佐々木仁 齋藤信哉 田名部悟忍 井上青波 堀内太 木田きみ子 土野正敏 水田正剛 田中健一 森山京子 西見嘉文 石宅文子 長谷川ひろゆき 田名部裕美 苔米地あつ子 岡田英哉 上条幸敬 立花淳一 吉田隆二 久保田泰弘 遠藤雅騎 瀬崎場千恵子 馬場千恵子 久保森まゆみ 松路徹也 淡沼辺慎 佐々木仁力 小笠原修彦 田名部和恵 福田恵美子

濱野勉 山内康之 岩谷政良 石幡忠雄 新田俊彦 林泰章 青砥忠雄 木下静雄 水田光信 小嶋敬久 藤井晏子 中尾貴嗣 久保貴嗣 山之内悠人 高橋正司 三浦正男 日當秀一 森園美洋 坂本卓也 佐々木昌功 船見光義 下山盛男 西村喜一郎 堤井武久 福向香織 小栗原祐一 藤川優里 古間木勝弘 畑中捷郎 嶋山行雄 橋場保人

委員長
副委員長

弘春慶宏子典利孝一
芳千和公知貴恭匡義健
本崎下谷原野科崎館本
山野柳濱宮小佐村南杉

久章輔子次彦作直美子
通洋邦浩毅金光明桂
山根内方葉池田浦内谷
村関竹大日千菊戸三竹打

子実淳英徹子男雄
律歩
内本田田橋山崎子
堀谷湯岡土新尾蛭

也敬子幸子希貴子
徹勝恵利賀京亜将賀
下西宮田場城部
山大三千川西船根田

第80回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

アイスホッケー競技会役員

(順不同、敬称略)

名誉会長
会長
副会長
顧問

| | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 熊谷雄一 | 小檜山吉紀 | | |
| 藤木幸太 | | | |
| 工藤俊憲 | 沼辺慎也 | 江守秀次 | 諸橋寛子 |
| 橋本昭一 | 米内正明 | 佐々木仁哉 | |
| 藤川優里 | 加澤明淳 | 齋藤信輔 | 山内康之 |
| 足立功一 | 谷上樹雄 | 江田澤忠嗣 | 今川雄哲 |
| 荒井貴史 | 鈴木康真 | 吉田悦憲 | 瀬江守秀 |
| 亀山幸太郎 | 長田佳充 | 杉本沢祥一 | 江中村慎修 |
| 藤野浩彦 | 下川正良 | 竹沢文喜 | 伊藤野佳樹 |
| 石岡幸生 | 辻次典治 | 渡立山繁夫 | 巽沢一郎 |
| 山直也男 | 中田宗治 | 園岡章啓 | 逢藤井健二 |
| 大帽子輔子 | 上田代春江 | 安谷原誠一 | 渕上誠一郎 |
| 押藤崎剛 | 田三沢悟 | | 黒木誠一郎 |
| 山名文世 | 土嶺直樹 | 長谷川ひろゆき | 山之内悠人 |
| 前田由美 | 吉田洸龍 | 田名部裕美 | 高橋正博 |
| 間盛仁志 | 久保百益 | 苔米地あつ子 | 高三浦正男 |
| 石橋充孝 | 中村八十博 | 岡田幸哉 | 日園秀美 |
| 小屋敷美博 | 伊藤圓則 | 上花敬淳 | 森坂本卓也 |
| 五戸定朗 | 寺地則行 | 吉田隆二 | 佐々木昌光 |
| 浅野孝幸 | 小比類巻重正 | 久保田泰弘 | 船見山村喜一郎 |
| 小比類巻孝幸 | 鈴木正義彦 | 遠藤雅一 | 下山村盛男 |
| 奥本菜保巳 | 小比類巻直子 | 馬場千恵子 | 堤井武香 |
| 春日洋巳 | 小蛭名政慎一郎 | 久松森まゆみ | 小淡路慎也 |
| 西落喜一夫 | 石藤俊正 | 佐々木結信 | 沼辺弘里 |
| 佐々木祐一 | 工藤内勝朗 | 齋藤橋正博 | 佐々木賀沢 |
| 栗原優弘 | 米工藤一男 | 石松尾昇 | 戸長谷川 |
| 古間山吉治 | 松田島幹二 | 高木村富士夫 | 山之内陸雄 |
| 一吉誠夫 | 田佐々木克保 | 小笠原嘉 | 目澤伸一 |
| 坪宏和彦 | | | |
| 田名部和彦 | | | |

参与

委員長
副委員長
委員

| | | | |
|------------------|-----------------|--------|-------|
| 松島政栄 | 福田恵美子 | | |
| 服部昌樹 | 石井洋 | 佐藤深雪 | 山田哲 |
| 山本芳弘 | 菊池厳弘 | | |
| 足立優 | 大澤明美 | 大澤ちほ | 郷堀ヨゼフ |
| 末吉直樹 | 田中潔志 | 田中浩一朗 | 田名部良雄 |
| 長南哲生 | HABERL DIETER | 藤田直人 | 本川敬一 |
| RAMIREZ CAPRILES | ALEXANDER RAMON | 小笠原光則 | 西村崇 |
| 小山田泰彦 | 駒津英司 | 澤口誠介 | 田島幹二 |
| 我満武志 | 鈴木敏宏 | 夏堀健一 | 若林クリス |
| 番澤真一朗 | 中村猛男 | 白鳥洋志 | 大前拓視 |
| 山子泰典 | 大崎文彦 | 栃木榮志 | 下谷直樹 |
| 佐藤英樹 | 岡田一実 | 佐々木慎太郎 | 打谷桂子 |